

**公益社団法人日本オーケストラ連盟 第13期
2024年度（令和6年度）事業報告・収支決算書**

自：2024年4月1日
至：2025年3月31日

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

公益社団法人日本オーケストラ連盟 2024年度（令和6年度）事業報告

《第13期》2024年4月1日から2025年3月31日まで

近年、私たちの生活を取り巻く環境は、以前にも増して大きな不安と常に隣り合わせであると言える。パンデミック、震災を始めとする大規模自然災害、世界各地で拡大を続ける紛争、ポピュリズムの台頭による世界的な政情不安、また日本国内でも物価の高騰、特殊詐欺などの犯罪増加、次世代人材の不足など、暗い話題ばかりが目につく。そのような中、私たちプロフェッショナル・オーケストラのような芸術実演団体の社会的役割、責任が近年、ますます大きく求められている。2024年度に当連盟が取り組んだ様々な事業はすべて、様々な社会的背景と密接に繋がっている。私たちが様々な事業に取り組む意味をあらためてしっかりと見つめ直し、持続可能な未来、言い換えるなら次世代の子どもたちがより豊かに暮らせる未来に向け、プロフェッショナル・オーケストラが出来ること、為すべきことを再定義しながら、パンデミック後の新たな歩みを進める1年となった。

1. 交響管弦楽及びオーケストラに関する調査研究、資料及び情報の収集 並びに情報の共有

(1) 「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2024」の編集・発行

文化庁の助成を受け、当連盟の基幹事業のひとつとして2008年から毎年発行している「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑」。今年度は、独立行政法人日本芸術文化振興会委託事業（文化芸術振興費補助金）「令和6年度文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集事業」の助成を受けて刊行した。

当連盟加盟団体の公演数やカテゴリーごとの実施状況、自主公演記録（公演内容）、楽員や事務局員の構成、財務状況、都道府県別の公演数や来日オーケストラの公演情報、海外のオーケストラで活躍する日本人演奏家の情報などを掲載し、オーケストラを取り巻く実態を網羅した基礎資料として行政機関や学校、研究機関等においても評価されている。

また今回は、「子どもたちにオーケストラを届けたい～学校巡回公演の〈今〉、そして〈未来へ〉～」と題し、学校巡回公演担当スタッフの座談会企画レポートを掲載した。

(2) 各種レポートの発行

収集した資料、情報を随時「日本オーケストラ連盟ニュース」および連盟公式SNS等で公開し、わが国のプロフェッショナル・オーケストラ活動の認知度向上に努めた。

(3) ステージスタッフ会議、ライブラリアン会議の開催

●ステージスタッフ会議 2024年8月13日（火）～14日（水） 香川県県民ホール

＜主な議題＞ ・労働安全衛生規制の一部改正とその対応について
・昨今の物価高騰による影響など

●ライブラリアン会議 2024年11月11日（月） 高崎芸術劇場

<主な議題> ・ライブラリーにおける問題の実例、解決策の意見交換
・楽譜代理店との質疑応答

(4) 基礎資料作成の調査・検討

今年度も、「子どものためのオーケストラ検証」プロジェクトを継続実施した。当連盟加盟団体である大阪交響楽団、東京交響楽団が実施した、小学校（大分県内2校、東京都内1校、新潟県内1校）での学校巡回公演において、参加児童や教職員へのアンケート調査を新たに実施し、調査結果をパンフレットにまとめた。

(5) 持続可能な社会へのオーケストラの取り組み

●「ジェンダー・ギャップについての意識調査」への協力

東京藝術大学キュレーション教育研究センターとみずほフィナンシャルグループの共同研究プロジェクト「アートとジェンダー」のリサーチプログラムの一環として、日本のオーケストラ団員（楽員および職員）のワーク・ライフ・バランスとジェンダー・ギャップに関するアンケート調査依頼を受け、協力した。当連盟正会員27楽団へのアンケート協力依頼を送付、楽員186名、事務局員88名から回答を得た。

2. 交響管弦楽の振興と普及のための公演及び講習会等の企画・開催

(1) 「オーケストラの日2025」の開催

当連盟ではオーケストラ文化の普及、浸透を図るため、3月31日を「オーケストラの日」と制定。例年この日の前後で加盟団体が全国で多彩な催しを行っている。

東京では、首都圏の加盟13団体が実行委員会を組成し、東京文化会館において「オーケストラの日2025」公演を開催。大ホールでのオーケストラ・コンサートに加え、小ホールでは「0歳からのコンサート」と子ども対象の楽器体験を、また大ホールロビーでは「オーケストラ広場」と銘打ち、参加オーケストラがそれぞれ工夫を凝らしたブースを設けてPR活動を展開した。今回は「オーケストラ広場」にオーケストラ・アンサンブル金沢も特別参加し、復興支援をアピールした。

オーケストラ・コンサートは、当初出演を予定していた秋山和慶氏の逝去に伴い、太田弦氏が指揮。首都圏13楽団の選抜メンバーによる〈オーケストラの日祝祭管弦楽団〉と2名の歌手が出演し、華やかな演奏をお楽しみいただいた。

<実施概要>

開催日：2025年3月31日（月）

会場：東京文化会館

主催：首都圏オーケストラの日実行委員会、日本オーケストラ連盟、

東京・春・音楽祭実行委員会

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション

協力：日本音楽財団（日本財団助成事業）

協賛：株式会社 teket

入場者数：大ホール 1,501 名、小ホール 491 名

また、全国各地では、加盟 13 団体がそれぞれの本拠地で、「オーケストラの日」にちなんだ多彩な演奏会を開催。ひとりでも多くの方や子どもたちにオーケストラの生の演奏に触れていただく機会を創出した。

(2) 「アジア オーケストラ ウィーク 2024」の開催

2002 年にスタートし、日本とアジアのオーケストラ競演による文化交流プログラムとして 22 回目の開催となった「アジア オーケストラ ウィーク」。文化庁の京都移転に伴い、初の京都開催となった今年度は、シンガポールのフラッグシップ・オーケストラとして近年ますます進境著しい「シンガポール交響楽団」を招聘。また京都市交響楽団がホスト・オーケストラを務め、両国の特色を生かした色彩豊かなオーケストラ・サウンドの競演で関西の聴衆を大いに楽しませた。演奏会以外にも「シンポジウム&ミニ・コンサート」を開催。両楽団とその本拠地である各都市との関係性、特に地域に密着したエデュケーション・プログラムの具体的な取り組みとその多様性をテーマにディスカッションを行った。

<実施概要>

主催：文化庁 共催：日本経済新聞社 特別協賛：新菱冷熱工業株式会社

○シンガポール交響楽団公演

開催日：10 月 19 日（土）

会場：京都コンサートホール 入場者数：1,350 名

○シンポジウム&ミニ・コンサート

開催日：10 月 20 日（日）

会場：ヒューリックホール京都 参加者数：67 名

○京都市交響楽団公演

開催日：10 月 22 日（火）

会場：京都コンサートホール 入場者数：1,086 名

(3) 「全国学校巡回公演」事務局支援業務（一部）の受託

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行う事業。当連盟加盟団体にとっても非常に重要な基幹的活動のひとつとなっているため、当連盟としても加盟団体支援の位置付けで取り組んでいる。

今年度、当連盟は統括団体として独立行政法人日本芸術文化振興会（芸文振）から本事業の事務局業務の一部を受託。事業実施主体である芸文振および事務局運営を担う民間運営事業者と

連携し、実施団体調整に係るアドバイス、実施団体の様々なサポート及び相談窓口業務、現地視察及び報告書作成業務、精算関連業務補助、配布プログラム制作支援などを行った。

実施団体数：24 団体（当連盟加盟団体のみ）

実施学校数：319 校

(4) 「全国キャラバン」の実施

全国における大規模で質の高い公演等の実施を支援することを通じて、国内における文化的な地域格差を解消するとともに、統括団体による新たな活動拠点の形成を促進することを目的として実施される本事業に、当連盟も統括団体として3年連続で参加。令和5年度からの3ヶ年計画で参加している3団体を含む5団体計6公演の主催者として本事業の運営統括業務を担った。さらに、東北エリアにおける本事業の全体広報業務を担当した。

<実施概要>

○北海道・東北エリア

仙台フィルハーモニー管弦楽団公演 2024年9月10日（火）盛岡市民文化ホール（岩手県）

山形交響楽団公演 2024年12月18日（水）横手市民会館（秋田県）

○中部・北陸エリア

神奈川フィルハーモニー管弦楽団公演 2024年7月28日（日）グランシップ（静岡県）

NHK 交響楽団公演 2024年10月14日（月祝）富士市文化会館（静岡県）

○中国・四国エリア

新日本フィルハーモニー交響楽団公演

2024年7月28日（日）島根県芸術文化センター（島根県）

2024年12月1日（日）境港市文化ホール（鳥取県）

(5) 日本オーケストラ連盟創立30周年記念事業の検討

2020年度、新型コロナウイルス感染症拡大により実施を見送った当連盟創立30周年記念事業について、2025年度にあらためて創立35周年記念事業の位置付けで実施することを目指し、加盟団体事務局員有志による実行委員会で検討を重ねた。その結果、わが国のプロ・オーケストラを取り巻く諸課題に対し、統括団体として取り組むべき活動を「日本のオーケストラの発信力強化とブランディング」「オーケストラの持続可能な活動基盤強化」の2本柱で事業化し、日本社会、さらには世界における日本のプロ・オーケストラのプレゼンス向上を目指した取り組みを進めることとした。

(6) 講習会、セミナーの開催

● 「Operabase」社CEOとの意見交換会の開催

デンマークを拠点に、ヨーロッパを初めとする世界中のオペラ公演等のリファレンスと演奏家データベースの提供、プロモーション支援などを手掛ける「Operabase」社のウルリケ・クステイニングCEOを迎えた。同社が保有する膨大な公演記録データベースを活用した公演情報検索

機能やキャスティング機能の、日本のプロ・オーケストラ活動への活用方法、およびインバウンド需要に対応するための海外プロモーション展開への有効性などがプレゼンテーションされ、連盟加盟団体の制作・広報担当者との意見交換会を行った。

開催日：2025年2月28日（金）

会場：東京国際フォーラム 会議室 参加者数：38名

●「子どものためのオーケストラ」読み解きセッションの開催

株式会社電通 PR コンサルティング企業広報戦略研究所上席研究員の戸上摩貴子氏を迎え、当連盟が2015年より調査を継続している「子どものためのオーケストラ検証プロジェクト」10年間の分析結果とデータの読み解き方に関する勉強会を行った。大規模自然災害やパンデミック、様々な社会環境変化の中にあっても、オーケストラ鑑賞体験を通じた子どもの心の動きや意識・心境、行動変化には一定の同じ影響が見られることが説明された、当連盟加盟団体の学校巡回公演制作担当者からは、調査を継続することの重要性が訴えられた。

開催日：2025年2月28日（金）

会場：東京国際フォーラム 会議室 参加者数：33名

(7) インターンシップの推進

当連盟が窓口となり、加盟団体にて実施しているインターンシップ制度を今年度も実施した。音楽大学や一般大学のアートマネジメントに関心のある学生を公募し、選考の上、受け入れ可能なオーケストラとマッチング。今年度は応募学生23名のうち15名が、13オーケストラにおいて研修に参加。留学生も2名が初参加した。一方で、参加をキャンセルした学生数も過去最高だった。

(8) その他の活動

●「アフィニス夏の音楽祭 2024 かがわ」への協力

公益財団法人アフィニス文化財団による国内プロオーケストラ・メンバーのためのセミナー音楽祭「アフィニス夏の音楽祭 2023 かがわ」（香川県高松市）に協力した。

●「明日を担う音楽家たち 2025」の開催

文化庁の「新進芸術家海外研修制度（旧芸術家在外研修制度）」により海外で研鑽を積んだ若手芸術家たちが成果を発表するコンサート。当連盟は器楽分野で隔年開催している。また、前回までは文化庁の委託事業であったが、今回から当連盟主催事業（文化庁助成事業）となった。今回は、本田ひまわり氏（オルガン）、原田莉奈氏（ピアノ）、青島周平氏（ピアノ）、山根風仁氏（チェロ）の4名が高関健指揮の東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団と協演した。

<実施概要>

開催日：2025年2月27日（木）

会場：東京オペラシティコンサートホール

主催：公益社団法人日本オーケストラ連盟

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））

独立行政法人日本芸術文化振興会

入場者数：850名

3. 青少年に対する交響管弦楽の普及

(1) 復興支援演奏会の実施

2024年1月に発生した能登半島地震の復興支援を目的に、昨年度の「オーケストラの日2024」公演時に会場で実施した募金を原資として、〈「オーケストラの日」アンサンブル公演 in 輪島〉と題した復興支援演奏会を実施した。

首都圏の加盟団体から、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、パシフィックフィルハーモニア東京、東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団、千葉交響楽団のメンバーが参加。オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーとの合同アンサンブルを結成。輪島市立門前中学校（参加者約100名）と門前町道下第一団地集会所（参加者約50名）の2か所で演奏会を行った。門前中学校では、門前東小学校、門前西小学校の児童も参加。コンサートの前には「キャリアトークセッション」を開催し、子どもたちがプロの演奏家と直接対話する機会を持った。

(2) 第21回「子どもたちと芸術家の出あう街」の制作

東京都が主催する子ども向けイベントに、当連盟は今年度も実行委員会の一員として参加。連盟理事長が実行委員長を務め、連盟事務局は加盟団体の東京フィルハーモニー交響楽団とともに制作を担当した。

東京フィルによるオーケストラ・コンサートのほか、弦楽器体験、雅楽、書道、服飾（創作表現）のワークショップなども同時開催。また、東京フィルメンバー（弦楽四重奏）による事前アウトリーチも都内各所で計5回開催した。

<実施概要>

2025年2月11日（火・祝） 東京オペラシティコンサートホール

企画・制作・演奏：東京フィルハーモニー交響楽団

オーケストラ公演入場者数：1,096名

ワークショップ参加者数：245名

無料イベント等参加者数：480名

事前アウトリーチ参加者数：410名 合計：のべ2,231名

<制作会議への参加>

2024年5月10日（金）、7月24日（水）、2025年2月5日（水）

4. 交響管弦楽に関する国際交流

●リーグ・オブ・アメリカン・オーケストラズ (LAO) ナショナル・カンファレンスへの参加

6月5日(水)～8日(土)にかけ、米テキサス州ヒューストンで開催された League of American Orchestras (LAO) 第79回ナショナル・カンファレンスに、当連盟事務局の沖汐明日香が参加した。世界最大規模のプロフェッショナル・オーケストラ関係者のカンファレンスで、アメリカ国内の楽団のほか、イギリス、オーストラリア、カナダ、シンガポール、日本、ニュージーランド、ブラジルなど世界中のオーケストラ関係者が参加。

多彩なテーマでのセッションが開催される中、ヒューストン交響楽団による若年・中年層からの寄付金獲得の取り組み、生成AIが音楽芸術に及ぼす影響、また「レlevance」の視点で人がモノを購入する理由など、多様な知見が得られたほか、アメリカや他国のオーケストラ関係者とのリレーション構築の成果が得られた。

帰国後は、連盟加盟団体職員を対象としたオンライン報告会を実施。連盟を代表して得た知見を加盟団体全体に共有した。

●オーケストラ連盟国際オンライン・ミーティング 計2回

昨年度、当連盟の呼びかけにより実施した、海外のオーケストラ関連機関（各国のオーケストラ連盟等）や音楽関係者等とのオンライン会議を今年度も継続開催した。

○第2回

開催日：2024年5月8日(水)

参加者数：17名(8カ国、9組織)

○第3回

開催日：2024年10月31日(木)

参加者数：17名(10カ国、13組織)

5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1)「日本オーケストラ連盟ニュース」の発行(計3回)

当連盟加盟団体のみならず、わが国のプロフェッショナル・オーケストラに関する様々なトピックスや特集記事、調査・資料収集等で得られた知見、各種情報などを網羅。また、加盟団体の主催公演を一覧表示することでコンサートガイドの役割も果たし、単なる業界団体の機関紙に留まらず、広く一般の方にもオーケストラに親しみを感じていただけるよう工夫している。

第114号(2024年7月31日発行) 発行部数：6,000部

第115号(2024年11月30日発行) 発行部数：6,000部

第116号(2025年3月31日発行) 発行部数：6,000部

※各号ともPDF版(全ページ)を連盟公式HPに掲載

(2) 「日本のオーケストラ」作成

この年度は発刊しなかった。

(3) 他の芸術団体等との連携

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、芸術家会議、文化芸術推進フォーラムの一員として、他の芸術団体や「劇場・音楽堂等協議会」などとも連携を図り、健全な文化芸術活動やオーケストラ運営ができる環境整備と充実に努めた。

6. その他の事業

(1) 著作権代行事業

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定による、加盟オーケストラの使用する管理著作物の包括的申請と使用料の一括徴収と支払業務を実施した。

(2) 共同広告事業

本年度は実施しなかった。

(3) 互助会事業

病気や怪我で3ヶ月以上活動できない、連盟加盟の楽団に所属する楽員・職員への無利息による貸付制度。本制度の利用を促した。

会議の開催

●理事会 計5回

第1回 2024年5月27日（月）AP品川アネックスルームとWebによるリモート開催の併用

第2回 2024年6月7日（金）Webによるリモート開催

第3回 2024年6月17日（月）機械振興会館とWebによるリモート開催の併用

第4回 2024年9月20日（金）Webによるリモート開催

第5回 2025年3月24日（月）AP東京八重洲

●総会

定時社員総会 2024年6月17日（月） 機械振興会館

●運営委員会 計7回

2024年4月30日（火） Webによるリモート開催

2024年8月7日（水） Webによるリモート開催

2024年10月28日（月） Webによるリモート開催

2024年11月27日(水) Webによるリモート開催
2024年12月25日(水) Webによるリモート開催
2025年1月30日(木) 自動車会館
2025年2月21日(金) Webによるリモート開催

<運営委員> ※2025年3月31日現在

佐藤隆文 理事長
望月正樹 専務理事
西濱秀樹 専務理事(山形交響楽団 専務理事)
多賀 登 理事(札幌交響楽団 事務局長)
佐藤直樹 理事(東京都交響楽団 常務理事)
工藤真実 理事(東京フィルハーモニー交響楽団 常務理事)
榊原 徹 理事(神奈川フィルハーモニー管弦楽団 常務理事)
白川和彦 理事(セントラル愛知交響楽団 理事)
高尾浩一 理事(京都市交響楽団 チーフ・プロデューサー)
赤穂正秀 理事(大阪交響楽団 常務理事)
花谷尚二 理事(広島交響楽団 専務理事) 計11名

●首都圏オーケストラ連絡会 計4回

2024年4月24日(水) Webによるリモート開催
2024年7月31日(水) 日本オーケストラ連盟事務局とWebによるリモート開催の併用
2024年11月6日(水) Webによるリモート開催
2025年3月7日(水) 日本オーケストラ連盟事務局とWebによるリモート開催の併用

●地方オーケストラ連絡会 計3回

2024年4月22日(月)～23日(火) 大阪フィルハーモニー会館(大阪市西成区)
2024年8月9日(金) Webによるリモート開催 ※臨時開催
2024年8月22日(木) サンポートホール高松 会議室(香川県高松市)

●合同会議(地方オーケストラ連絡会および首都圏オーケストラ連絡会)

2024年8月21日(水)～22日(木) サンポートホール高松 会議室(香川県高松市)

●首都圏オーケストラの日実行委員会 計3回

2024年12月16日(月) 日本オーケストラ連盟事務局
2025年1月28日(火) 日本オーケストラ連盟事務局
2025年3月11日(火) 日本オーケストラ連盟事務局

●「子どものためのオーケストラ検証」プロジェクト委員会の開催 計2回

2024年5月16日(木)、2025年2月20日(木)

外部の委員会・協議会等への協力

- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）の理事として望月正樹専務理事が、また監事として桑原浩参与が参加した。
- 公益社団法人日本演奏連盟の常任理事として吉井實行参与が参加した。
- 公益財団法人音楽文化創造の評議員として桑原浩参与が参加した。
- 芸術家会議の常任幹事として望月正樹専務理事が参加した。
- 文化芸術推進フォーラムの運営委員として望月正樹専務理事が参加した。
- 公益財団法人公益法人協会の評議員として桑原浩参与が参加した。
- 公益財団法人アフィニス文化財団の理事として望月正樹専務理事が参加した。
- 一般社団法人演奏家権利処理合同機構（MPN）クラシック委員会の委員として工藤真実理事および宇山友思事務局長が参加した。
- アジア・太平洋地域オーケストラ連盟の事務局長を名倉真紀マネージャーが務めた。

関係団体との連携、協力

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、芸術家会議、文化芸術推進フォーラム、日本音楽芸術マネジメント学会、公益財団法人公益法人協会の会員、構成団体として参加している。

庶務の概要

会員に関する事項

正会員	準会員	賛助会員	名誉会員
27	13	法人 5 個人 1	0

※2024年度定時社員総会において「富士山静岡交響楽団」および「中部フィルハーモニー交響楽団」の準会員から正会員への移行（入会）が承認されたため、正会員数と準会員数が前年度から変動。

2024年度 事業報告の附属明細書

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。